

# 中一 国語科通信

第3号  
平成29年7月20日  
国語科1年担当  
日高・平川・棟間



夏の午後口に運べる氷より  
心地よき銀の匙のつめたさ

## 今度は味噌汁?!

前回の通信でダイコンのすりおろし実験についてお伝えしたところですが、今度はなんと、だし入りとだし無しの味噌汁の飲み比べをしました。

第七回「論理の虎」で、日本の誇るべき伝統である「うま味」について学び、では実際に体験してみようではないか、ということによって飲み比べが実現したのでした。

我々が準備した二三〇個ほどの小さな紙コップにだし入りとだし無しの味噌汁を入れ（私たち、朝からずつと給湯室で味噌汁を作っていました!）、全員で飲み比べ! その結果、約数名「だし無しの方がおいしい」と言いましたが、ほとんどの人はだし入りの方をおいしいと感じたようです。



### 「甘いカレー」

1組 K君

五才のとき私は、夕食が嫌いなカレーだと聞いてだだをこねた。そして夜八時までごはんを食べなかつた私は、とてもお腹が減っていた。

少し時間が経ち、母に怒られた私はしかたなくカレーを食べた。

すると、いつも辛いカレーが甘く感じた。母に聞くと、カレーの辛いのが苦手だった私のために甘くしてくれたと聞いた。

こういう母の工夫のおかげで今はカレーが大好きである。

※あなたたちを見つめる目は、いつも温かい。

なんとかしてあなたたちを、優しく包みたいと思っている。そして、幸せになってほしいと願っている。そのことを忘れないでほしいな、と思う。

部屋中に漂うなんとも言えないだしの良い匂い。なかなか飲み干さず、「おいしい、おいしい」と大事に飲んでいた皆さんの姿に、心もほんわかしました。

今回は、その授業後に皆さんに書いてもらった作文「心に残る味」から、三名の文章を紹介します。私たち教科担も、読んでいてグツと心に迫るものを感じました。皆さんの「書く力」にハッとさせられる瞬間です。

### 「手作りケーキ」

2組 Nさん

私の誕生日には、毎年外食をしている。でも一度だけ外食をしなかつたことがある。七歳の誕生日だ。

七歳になった朝、急に母から言われた言葉。「弟が生まれたばかりだから外食には行かない。」私はとてもショックだった。どうして弟ばかりと考えていた。そんな私を見て、母は「そのかわり一緒にケーキを作ろう」と言った。

今でも誕生日になると思い出す。母と一緒に作ったケーキの味を。

※弟の誕生の喜びの陰にある「お姉ちゃん」の複雑な思い。それを察したお母さんの優しさ。家族の結びつきの強さがうかがえますね。

3組 N君

「初めてで、初めてではないトマト」

僕は、小学校四年生の頃から植物を育てるようになった。

そして、トマトが初めて育てた植物だった。

母がそのトマトを弁当に入れてくれた。食べるのは初めてではないが、初めて育てたトマトであった。味ははつきり言って美味しくなかった。だが、とても嬉しかった。

このトマトが、それから僕が植物に興味を持つ種になったのだ。

※自分で育てたトマトの味は、美味しいか否かではない、特別なものだったことが伝わってきます。「興味を持つ種」という表現も秀逸!

コラムマラソン 第三回

### 「繊細と情熱のあいだ」

一年三組担任・教科担当の平川兼利（ひらかわ・かずとし）です。

このコラムを書くに当たって「自分とは一体どんな人間なのか」を改めて考えてみました。……が、自分のことはよく分らないものです。そこで、周囲の先生方七名に「平川兼利はどんな人間ですか?」と尋ねてみました。その回答がこちら。

①熱血漢! (そしてそれを「顔」で表現している。) 一方で、ものすごく繊細な男でもある。②顔の筋肉が柔らかいんだなあ。「表情豊か」とも言えるかな。③バイタリティーあふれる表情が印象的。「情」で動くタイプであり、「礼」を重んじるタイプでもある。さすが弓道育ち!(サッカーも上手) ④ノリがラテン系。繊細で、驚くほどきめ細かな一面も……。⑤気持ちが熱く、生徒と一緒に何かをするのが好き。感謝の気持ちを伝えることをとても大切にしている。⑥激熱! 赤が似合う。熱いんだけど、決して威圧的ではなく、さわやか。⑦快活だけ強くはない。そういうところも含めて、男らしい。

……なんか照れますね。私の motto は「楽しく!」でも、やる時はやる! です。これからも熱く、表情豊かに、感謝の気持ちを胸に、生きていこうと思います。